

2010. 7. -7

## 自由席

合唱に加わった。

客席の幅は狭く、お尻をのせるクッションはぶよぶよ。残響が短くて音がうまくブレンドしないから、演奏に少しでもミスがあれば聴衆の耳に届く。

1960年代まで音楽の殿堂だった東京・日比谷公会堂は、現代のクラシック用ホールに比べるといくつも欠点を持っている。しかし近年、奇跡的なコンサートにも時折、出合うようになった。

2日に開かれた演奏会は井上道義指揮NHK交響楽団によるベートーベン「第九」。第

## 日比谷公会堂のパワー

日比谷公会堂では戦時中にも年間150回の演奏会があった。「第九」や「マタイ受難曲」といった大曲も多かった。空襲の後は遺体安置所にもなった。周辺は焼け野原だったはずの1945年6月の「第九」に集った人々は何を祈り、何を願って「歓喜の歌」を歌い、聴いたのか。

終演後は「ブラボー」の嵐になった。開場から80年。様々な歴史を秘めた公会堂の放つ特別な場のパワーとでも呼ぶべきものが、会場時のモンペや国民服姿の合の全員をひとつにした感が

あつた。

(久)